

【60】開閉橋

東京の隅田川の河口近くの築地と対岸の月島を結ぶ「勝鬨橋」という長さ 246m の大きな橋があります。3 径間の鋼橋で左右の 2 径間は堂々としたアーチ橋になっていますが、最大の特徴は中央の小さな径間（44m）が平らな橋になっていて、大きな船が通過する時にはまん中で 2 つに割れて両側に八の字に跳ね上がることです。そしてその開いた中央を背の高い船が通りぬけます。わが国で初めてのタイプの橋だそうです。

昭和 15 年（1940）に架橋され、ピーク時には年間 1,700 回も開閉したといわれますから一日平均 5 回ほど開け閉めしたことになります。

私も中学生の頃、とある日曜日に開閉を見物に行きました。停止線として張られたロープの一番前に陣取ってワクワクしながら開くのを待ちました。やがてチンチンと鐘が鳴って橋面がジリジリと上がっていきます。平らなはずの広い橋面が目の前で斜めになるのを見て感激したのもつかの間、斜めになった橋面から土ぼこり、タバコの吸殻、ゴミなどが突然ザーッとすべり落ちてくるのです。最前列の私は逃げようにも見物人がギッシリで逃げられずホコリまみれになり、頭からまっ白になりました。

東京名所の一つだった勝鬨橋ですが、通っている道路が日比谷から銀座 4 丁目交差点をすぎ、当時の築地の魚市場前から隅田川対岸の月島の晴海へ行く混雑した道路（晴海通り）なので、交通渋滞の原因だとして昭和 45 年（1970）を限りに開閉は中止され、今日に到っています。